平成３０年度　ＦＦＪ環境調査について

日本学校農業クラブ連盟

環境調査委員会

１　平成３０年度の環境調査について

（１）調査テーマと対象生物

“タンポポ調査”～第２弾～「在来種を探そう」

調査対象種：シロバナタンポポ、黄花系在来種、外来種（雑種を含む）

（２）目的

環境調査の主旨とこれまでの歩みを尊重し、調査初代のテーマを再調査することで１６年前から今日までどれほどの外来種の分布や環境が変化してきたかを追求することがこのタンポポ調査の最大の目的である。そのため、平成３０年度も継続してタンポポ調査を環境調査のテーマとし、各都道府県の分布図が完成するのを目標とする。

また、本調査は全国４９連盟９万人以上の農業クラブ員ひとりひとりが主体的に取り組める活動であり、さらに身近な植物であるタンポポにも多くの種類、在来種や外来種の特性や見分け方などに興味をもたせ、楽しみながら学習や活動に参加することを継続して期待する。

（３）調査期間：平成３０年２月１日から８月１日

（４）日連提出期限：平成３０年１１月１７日必着

（５）基本方針

①タンポポの全国分布図が完成するまで、タンポポ調査を行うこととする。

②外来種であるセイヨウタンポポとそれらの雑種がほぼ全国的に広まっていることが推測されており、在来種および外来種（雑種含む）と判断できるものが全国でどれだけ発見できるかを確認する。

③タンポポの生態や品種の見分け方に関する内容を理解してもらい、花粉の観察や種子形成を確認する実験なども紹介し、できるだけ正確に在来種および外来種（雑種を含む）の判断を図る。

④過去ＦＦＪ環境調査報告書「タンポポ調査」のデータと比較検証し、在来種および外来種（雑種を含む）の推移を確認する。

⑤分布の表示などに関しては、環境省での取り組みを活用することを検討する。

（５）具体的な調査・集計方法について

「平成３０年度環境調査」、「平成３０年度環境調査の手引き」、「個人調査用紙２０１８」、「２０１８環境調査集計表」など日連ＨＰの「環境調査」から必要に応じてダウンロードしていただき、各単位クラブにおいて、調査方法やタンポポの見分け方などの解説を平成３０年２月１日から利用してください。また、昨年度に引き続き「Geocode Viewer」（http://www.geosense.co.jp/map/tool/geoconverter.php）を使って、現住所などから３次メッシュコードのみを求めて「個人調査用紙２０１８」、「２０１８環境調査集計表」に記入してください。

例年と同様に、各都道府県の事務局は単位クラブの集計結果をまとめ、電子メールまたは電子記憶媒体（ＣＤ－Ｒ）に保存し、日連事務局へ提出願います。